

[5] 支部だより

北海道支部

(H8, H10) 本田 肇

コロナウイルス感染症の位置づけが5類になったことを受け、北海道支部では、今年、2019年以来4年ぶりとなる支部総会&懇親会をリアルで開催することにしました。

久しぶりの支部総会となりましたが、川合紀章支部長(S54, S56)以下計11名の支部会員が出席するとともに、本部からも札幌御出身の市川温教授(H5, H7)をお迎えし、最近の京都大学の取り組みについて解説していただくなど、久しぶりに京都の話題にも触れることができ、改めてリアルのつながりの良さを実感した次第です。



支部総会を開催していない4年の間に多くの会員の入れ替わりがあり、北海道新幹線の工事本格化にあわせ、特に(独)鉄道・運輸機構の会員が多く増加したことが特筆されます。

北海道では、このように北海道新幹線札幌延伸工事とともに、札幌駅周辺での再開発事業などが進められているところですが、本年3月には、札幌市に隣接する北広島市にプロ野球・日本ハムファイターズの本拠地となる北広島ボールパーク(通称:エスコンフィールド北海道)がオープンし、野球の行われていない日もレストランなどの施設がオープンしており、平日5,000人、休日10,000人程度が来場するなど、8月には来場者数が200万人を超える一大観光地となっています。土木的な施設としては、周辺道路整備にあわせ、北海道で3番目となるラウンドアバウトが建設されています。今年は成績が低迷していますが、来年は、是非日本ハムファイターズの成績が向上し、更に多くの方に来場いただけることを祈っています。

なお、このボールパークも会場の一部として、来年1月10日(水)・11日(木)に、北国のふゆの課題克服やふゆを活かした地域づくりなどをテーマにしたイベントとして、「2024ふゆトピア・フェアin北広島」(東北・北陸地方では「ゆきみらい」)が開催される予定です。是非、道外の皆様にも、北海道にお越しただけのを楽しみにお待ちしております。

最後になりますが、支部総会において、長年幹事を務めていただいた山田菊子氏(H1, H3)が起業され、幹事を退任されましたので、新たに大塚健太氏(H19, H21)が幹事に選出されました。今後、川合支部長の下、支部運営を行って参りますので、北海道支部に転入されました場合は、幹事までご一報いただけますようよろしくお願いいたします。

東北支部

(H14, H16) 高木 猛志

東北地方でも5月の新型コロナの5類移行を受けて、概ね通常の生活が戻ってきました。青森ねぶた祭、仙台七夕まつり、秋田竿燈まつりの東北3大祭などが開催され、繁華街にも多くの人が見られるなど、活気が見られます。また、最近の円安も手伝ってか、外国人観光のゴールデンルートではない仙台でも外国人観光客を頻繁に目にするようになりました。世の中が一気に正常化したことが感じられます。また、昨今の物価高と相まって、気づくとホテルの価格が高騰しており、新型コロナ禍前とは異なった側面も見えてきています。

また、待望だった対面イベントと、新型コロナ禍で急速に一般化したリモートでのコミュニケーションとが、それぞれの長所を考慮して賢く選択されていることも強く感じます。小職も、関西在住の両親の元に正月や盆に帰省するものの、「リモートでもいつでも話することができる」と気持ちに余裕を持って対応することができるようになりました。新型コロナ禍で苦しんでいる際には予想する余裕がありませんでしたが、意図しなかった恩恵なのかと感じます。

東北地方に関するニュースとして、東北大学が大学ファンドによる初の支援対象候補に選ばれました。京都大学が最終で候補外となったのが残念ですが、東北基盤の大学として、また、京土会メンバーの先生も多数在籍の大学として頑張っていたきたいと考えております。また、地元の東北電力については、2011年の東日本大震災後、約13年ぶりの2024年5月に原子力発電所が再稼動する予定と明るいニュースも見られます。官公庁やゼネコン等を含め京土会東北支部のメンバーの方々には、各組織にて、東北発で日本を元気にする活躍をしていただきたいと期待しております。また、東日本大震災を重要なテーマとした新海誠監督のアニメ「すずめの戸締まり」は、昨年11月に公開され、国内外で大ヒットしました。様々な分野から東北地方が活性化するきっかけになればありがたいと感じます。

さて、至近1年の東北支部の活動状況ですが、新型コロナ

の5類移行を受け、7月下旬に念願の東北支部懇親会を再開しました。東日本大震災の復興工事も山場を越えゼネコンの方々を中心に転出される方が多い等の理由から、残念ながら人数は限られていたものの、昨年度新たに東北電力に所属された在京の小池さん(S54, S56)にもご参加いただき、奥村支部長(S59, S61)、遠藤さん(S49, S52)、加藤さん(H04)、和田さん(H05)、伊藤さん(H07, H09)、高木(H14, H16)の計7名にて、和気あいあいと貴重な交流をいたしました。



東京支部

(S62) 杉山和久

東京支部の常任幹事を拝命しております、昭和62年卒業の杉山でございます。本年の総会で宮田支部長の代理として、支部報告をさせて頂きました。



3年以上にわたり社会に多大な影響を与えた新型コロナウイルス感染症も、5月8日に5類扱いとなり、ようやくウィズコロナの新局面がスタートしました。これを受け本年6月5日に開催しました東京支部総会も、4年ぶりに立食形式で実施し、総勢188名の会員が集まりました。また、総会に引き続き、こちらも4年ぶりに開催した2次会にも60名を超える会員に参加していただき、久しぶりの通常形式での総会の雰囲気をしっかり味わうことができました。また、本年の総会には若年層も含め各世代からまんべんなく参加いただき、宮田支部長発案の若年層会費の思い切った引き下げが、このような盛会につながる大きな要因となり、今後の各種会合開催時の参考になる取組みとなりました。

総会は宮田支部長(48, 50)のご挨拶のあと、京土会会長の木村先生(57, 60)から京土会の今年度の新たな取組み・改革についてご紹介がありました。その新たな取組みの一環として本年度は教室から4名の先生に参加いただき、木村先生に続いて、須崎先生(H7, H9)から土木教室の現況を、高岡先生(H3, H5)から衛生教室の現況を、また、川池先生(H9, H11)から防災研究所の現況についてご報告をいただきました。

その後、安部常任幹事(57, 59)から会計報告がありました。また2023年度支部役員として、
支部長 宮田 年耕(48, 50)

一般財団法人 道路新産業開発機構 理事長

代表幹事 吉田 英信(53, 55)

鹿島道路(株) 代表取締役 社長

常任幹事 安部 吉生(57, 59)

大成建設 常務執行役員 土木営業本部副本部長

常任幹事 岩住 知一(61)

鹿島建設 土木管理本部プロジェクト推進部 プロジェクト推進部長

常任幹事 杉山 和久(62, H1)

大林組 執行役員 土木本部副本部長 兼 営業総本部副本部長

常任幹事 吉岡 大蔵(H7, H9)

国土交通省水管理・国土保全局 河川計画事業調整官のご承認を頂きました。

その後、足立敏之参議院議員(52, 54)から日本のインフラ投資拡大に向けた国政での取組みをご紹介いただくとともに、建設産業再生・インフラ再生のより一層の推進に向け、「京土会のメンバーとしてそれぞれの立場、持ち場で、皆で一緒になって取組もう」と、力強い激励がありました。

続いて、廣瀬関東地方整備局長(63, H2)、見坂大臣官房技術調査課長(H3, H5)のご挨拶がありました。また、久田NPO法人 海ロマン21会長(24)からは、97歳という年齢を感じさせない元気なご挨拶をいただき、皆背筋が伸びる思いでした。会の最後は、陣内先輩(31, 33)の万歳三唱で無事閉会いたしました。その後の二次会でも、世代を超えた参加者による多種多様な意見交換に花が咲きました。来年の支部総会は6月3日を予定しており、一層の盛会につながるように、京土会活動のさらなる活性化に向け、幹事団一同力を合わせて頑張る所存です。

言うまでもなく、京都大学創立当初からある土木工学科の卒業生の存在は、他の学部、学科に比べて抜きん出ており、その組織力は大きな力となります。京土会事務局のご努力とご尽力に改めて、心より御礼申し上げます。

最後になりましたが、京土会会員の皆様の益々のご活躍、ご発展を祈念いたしまして、挨拶に代えさせて頂きます。ありがとうございました。

千葉支部

(H4, H6) 辰見 夕一

(H4, H6) 中山 裕章

千葉支部では、千葉県に在住もしくは勤務される方を対象に定期的な交流の機会を設けさせて頂いております。懇親会についてはコロナ禍の影響でしばらく開催を見送っていましたが、今年の3月9日にJR千葉駅傍にあります東天紅千葉スカイウィンドウズにて4年ぶりに実施致しました。今回は千葉在住者24名の参加に加え、京大本校からも特別ゲストとして島田先生、松中先生、岩井先生の3名の先生方にも遠路お越し頂き会に花を添えて頂きました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

千葉支部懇親会はお陰様で今回30回目の節目を迎えることが出来ました。懇親会では発足当時より参加者の皆様全員から一言ずつショートスピーチと頂くとともに、会の締めとして琵琶湖周航の歌を皆で円陣になって合唱するスタイルを続けております。今回もS41卒の高橋通夫氏からH21、H23卒の西村昌朗氏の幅広い世代の方からご参加頂き会を盛り上げて頂きました。今後も京士会OBの「公私にわたる情報交換の場」として続けていければと思う次第です。

さて、今回の支部報はH4、H6卒の中山裕章氏に木更津市での生活や近況についてご執筆頂きましたのでご紹介させていただきます。

大学卒業後、主に千葉県南部の木更津市を基盤とした生活を送っております。現在所属する日本製鉄に入社したとき、南房総の富津市にある研究所に配属となり、自然豊かな土地柄であり地価の安さも手伝って、家庭をもってからそのまま研究所近くの木更津市に自宅を構えました。

千葉は東京に隣接しているとはいえ、木更津は陸の孤島のようなところがあります。アクアラインが完成する前は、木更津から東京へ会議などに出かけるときは内房線経由のJRにお世話になっていたのですが、混雑する2時間のローカル電車に耐え忍ばねばならず相当に疲れる移動でした。東京湾を跨ぐアクアライン完成後は高速バスが開通し、近頃は体への負担が少ない高速バスを利用しております。それだけに、アクアラインの完成とともに、木更津が一步東京に近付いたような感覚でした。アクアラインが出来た当初こそは、渋滞など無縁で高速バスの中もいつもガラガラでしたが、バスターミナルが整備され、近隣の駐車場も多くなるにつれ、圧倒的に高速バスの利用者が多くなりJRとの逆転現象が起きました。アウトレットや大型店舗も立ち並び、なくてはならないインフラとしてアクアラインは街の風景にすっかり溶け込んでおります。仕事の行き帰りにアクアラインから望む東京湾の風を見てみると、心穏やかにしてくれるところがあります。アクアラインは、生活を豊かにしてくれるだけでなく、土木技術者として土木という仕事が社会生活基盤を支えることを強く感じさせてくれます。

アクアラインのおかげで非常に移動の利便性が高まったのですが、東京への異動となってから、やはり木更津は遠方であることを突き付けられました。2014～2017年度の4年間、内閣府に出向となり東京へ通う日々となったのですが、通通勤は過酷でした。仕事が終わる夜の時間は不定期で、日付が変わってから帰ることもあり、その中で1日4時間の往復の通通勤時間は追い打ちをかけるように疲労困憊を常態化させておりました。内閣府出向後も東京での勤務となったのですが、幸か不幸かコロナを起点にテレワークが始まり、日々移動に拘束されていた時間が棚ぼたのように転がり込み、時間の貴重さを改めて感じております。

テレワークで体を動かすことが少なくなった分、木更津だからこそ手に入れることができたちょっとした裏庭の畑で、週末に野菜や果樹を育て汗を流すようにしております。今年はスイカがうまく育ったと喜んでいたのですが、裏庭に面する自然の草木が生い茂る小高い丘の住人である狸に、もの見事に綺麗に食べられる有様でした。木更津市には狸ばやしの伝説で有名な證誠寺があり、狸は木更津市のマスコットキャラクターでなんとなく愛嬌があるため、あまり怒る気にもなれず、ちょっとした里山気分を感じられる木更津の生活を楽しんでおります。



新潟支部

(S51, S53) 吉野清文

新潟支部の近況を報告します。

今年は4年ぶりに曾根支部長並びに佐藤幹事のご尽力で、3月15日に支部総会・懇談会が開催されました。私は平成21年7月に北陸地方整備局を最後に退官し、東京で暮らしていましたが、縁があって令和5年2月から新潟に拠点を置く建設コンサルタント会社にお世話になり14年半ぶりに新潟に帰って参りました。

新潟に来てさっそく同級生の曾根支部長、和田君に連絡を取ったところ3月15日に総会・懇談会が予定されているとのことで久しぶりに新潟支部の京土会の集まりに出席させていただきました。

当日の出席者は本部から高井先生 (H18, H20)、曾根支部長 (S51)、佐藤幹事長 (H20, H22)、長谷川さん (S33 建築)、和田さん (S51)、伊藤さん (S61, S63)、青木さん (入学土木 H3 経済)、吉野の8名でした。高井先生から本部の近況報告の後、それぞれの学生時代、卒業後の思い出や近況を報告し、約2時間余りの楽しい時間を過ごすことができました。

残念ながら支部会員全員の出席とはなりませんでしたが、特別会員(新潟在住者以外の新潟ゆかりの人)も入れて約半数の会員に出席いただきました。少人数ですが、会員は多彩です。土木系学科の卒業生だけでなく、色々な伝手で紹介していただいた京都大学の土木に縁のある方が参加されています。

その後、2か月に1回のペースで、佐藤幹事長の音頭で新潟市中央区幸西に住んでいる人住んだことのある人など幸西に縁のある会員他が集まり、「幸西会」と称して情報交換会が開催されています。来年の支部総会に向けて会員の入会促進策も議論されています。



支部の近況は以上ですが、新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、新潟も人の動きも活発になっています。新潟駅の高架化により、新幹線から酒田方面の在来特急への乗り換えの利便性もよくなっていますし、新潟駅周辺の再開発も盛んに行われています。14年前に比べると新潟駅周辺の賑わいは増しているように思います。ただ同じ北陸の金沢に比べるとその賑わいは見劣りをしているようです。

北陸新幹線が金沢まで開通したのが2015年3月14日、さらに2024年春の敦賀までの延伸に向けて工事が進んでいきます。一方、上越新幹線が開通したのが1982年1月15日ですが新幹線の利用状況を見ていると上越新幹線は北陸新幹線の枝線のような状況です。新潟の観光開発のポテンシャルはこんなものではないように思います。

新潟駅周辺開発が早期に完成し、新潟が今以上に多くの人で賑わう街になることを祈念しています。

(なお、青木さんは2023年11月7日にご逝去されました、心よりご冥福をお祈り申し上げます)

東海支部

(H7, H9) 澤木 夕紀彦

東海支部は、主に東海4県（岐阜、静岡、愛知、三重）に勤務地や住所のある同窓生を対象とした同窓会です。総会の開催は新型コロナウイルス感染症の影響により2020年以降見合わせておりましたが、2023年11月に開催するよう準備しているところです。

一方、全学部を対象とする愛知京大会が、2023年3月、約3年半ぶりに、名古屋市東区のホテルメルパルク名古屋で開催されました。約140名の参加があり、京土会関係者も約20名が参加されました。会では、ノーベル化学賞を2019年に受賞された吉野彰先生（工学部石油化学科・1970年卒/工学研究科石油化学専攻修士課程・1972年修了、旭化成名誉フェロー、名城大学教授）によるご講演「リチウムイオン電池の可能性 -カーボンニュートラルに向けて-」がありましたので、概要を記載します。

リチウムイオン電池（以下「LIB」）は1990年代初頭に商品化され、現在はノートパソコン、スマートフォンなどのIT機器の電源として日常生活に幅広く浸透し、電気自動車の電源や蓄電システムなどへの用途が拡大しているところです。LIBの開発は、福井謙一氏（1981年ノーベル化学賞）の「フロンティア軌道理論」と、白川英樹氏（2000年ノーベル化学賞）の「導電性高分子ポリアセチレンの発見」の成果が研究の基礎にあるということであり、数十年にわたる研究の積み重ねが商品化につながり、IT社会とともに成長してきたことがうかがえます。/ LIB開発へのノーベル化学賞は「Mobile IT社会の実現への大きな貢献」に加え「Sustainable社会の実現への大きな期待」が背景にあるということであり、カーボンニュートラル（温室効果ガスの排出量と吸収量の均衡）の達成に向け、LIBがエネルギー問題の解決で重要な役割を担うことができるよう取り組まれているということです。カーボンニュートラルは、その実現を期待する市場によって産業イノベーション創出の重要な関門「ダーウィンの海」を乗り越えることができ、実現は可能と考える、という希望のあるお話でした。/ Sustainable

社会の実現は社会資本整備でも重要な観点であり、LIBにより発展する車社会、エネルギーシステムも見据えながら考えていく必要があると思いました。



吉野彰先生（2019年ノーベル化学賞受賞）によるご講演

ここで東海地方におけるプロジェクトの進捗状況等を一部紹介いたします。

2026年に愛知・名古屋を開催都市としてアジア競技大会とアジアパラ競技大会が予定されています。それに向け愛知県体育館の名城公園（名古屋城北側）内への移転新築が進められています（愛知国際アリーナ、2025年夏開業予定）。

愛知県長久手市にある愛・地球博記念公園（2005年国際博覧会の会場）では、アニメ映画で有名なスタジオジブリ作品の世界観が表現される「ジブリパーク」が2022年11月に一部開園しました。2023年11月には「もののけ姫」に関連するエリアが開園し、2024年3月には「魔法の宅急便」「ハウルの動く城」などに関連するエリアが開園する予定です。

最後に、東海地域の都市計画行政に貢献されるとともに、東海京土会及び愛知京大会の会長として同窓会の発展にもご尽力いただいた三木常義氏（2022年11月ご逝去、瑞宝章受章）に感謝を申し上げ、報告を終わります。

長野支部

支部長 (S61) 青木謙通

長野支部は、周囲を東京、新潟、東海、北陸の4つの支部に囲まれ、長野県に在住、在勤する会員により構成される会員数10名程度の小規模な支部です。

長野県では、既に四半世紀を経過しましたが、1998年（平成10年）に開催された長野冬季オリンピックを契機に、北陸新幹線や上信越道・長野道などの高速交通網が暫定的に整備をされました。約8年前、2015年（平成27年）3月には北陸新幹線が長野から金沢まで延伸され、県内唯一である飯山駅が開業をしました。2024年3月には、金沢から敦賀までがさらに延伸されることとなっており、整備効果が見込まれています。また、リニア中央新幹線は、2027年の開業を目標に、建設工事が進められています。県南部の飯田市では、長野県駅が設置される予定で、開業後を見据えたまちづくりの取り組みが活発となり、地域の発展に期待が寄せられています。

一方、4年前の2019年10月には、東日本台風により長野市の穂保地区で堤防より越水、結果的に決壊し、千曲川から人家に水が押し寄せる衝撃的な映像が放映されました。全国より復興のボランティア、募金などのご支援をいただき、復旧・復興への力強い支援となりました。災害復旧工事は概ね終了しましたが、国土交通省を中心に千曲川緊急治水プロジェクトを展開し、住民の安全な暮らしの確保を

目指しています。

支部の活動についてです。本年7月には、1年ぶりの支部総会を計画していましたが、出席者数が見込まれず延期をいたしました。昨年は、ウェブを活用してのオンラインでの総会を7月22日に開催をしました。京都大学からは高橋良和教授にオンラインでご参加をいただき、専科の近況報告を中心に講演をいただきました。

今後の支部活動についてです。基本的には、会員の希望により、活動を展開しようと考えています。しかしながら、小規模な支部ゆえの活動に伴う役員の負担などがあり、周辺支部との合併など支部のあり方を考えていく時期にも来ていると感じているところです。

結びに、京土会並びに会員の皆様方のご活躍とご発展を祈念し、長野支部の近況報告といたします。

紙面を借りて恐縮ですが、長野県に在勤、在住する京土会員で支部活動のご案内をお届けできていない方は、お手数ですが下記までご一報をお願いいたします。

長野支部連絡先（支部長勤務先）

〒380-0836 長野市南長野南県町686-1

長野県 長野建設事務所 青木 謙通

電話 026-234-9537

090-3317-9883

Mail aoki-kanemichi@pref.nagano.lg.jp

kanemichi@outlook.com

北陸支部

(H4, R2経営) 市 森 友 明

北陸支部は、富山県、石川県、福井県の3県にまたがる地域であり、2023年10月現在で97名の会員を有しています。

1. 北陸支部第37回支部総会

北陸支部37回総会は、2023年10月14日(土)福井県福井市のアオッサにて開催いたしました。各県担当幹事の皆様のご協力もあり、3県から21名の会員にご参加いただきました。

はじめに富山大学 学長補佐・特別研究教授、京都大学名誉教授 中川 大 支部長 (S54, S56) のご挨拶をいただき、その後、開催県を代表し、一般社団法人福井県建設業協会 技術顧問 橋本 栄治様 (S52) から開会のご挨拶をいただきました。総会では、各議案が順調に審議・承認されました。

2. 講演会、懇親会

総会に引き続き講演会が行われ、「北陸新幹線、福井・敦賀開業へ向けて - 整備計画決定から50年 - 」と題して独立行政法人 鉄道・運輸機構 福井工事事務所 工事第四課課長 柏木 亮 様 (H18) にご講演いただきました。



2023年10月14日 講演会の様子

北陸新幹線の金沢-敦賀間の開業日が2024年3月16日に決まり、新幹線開業の話題に沸く福井県において、北陸新幹線金沢-敦賀間の整備状況や各駅の紹介、敦賀-新大阪間の計画についてお話いただきました。

はじめに、ご所属の独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構のご説明後、新幹線の歴史にはじまり、整備新幹線事業の概要から実際の北陸新幹線の工事概要・進捗状況、金沢-敦賀間での特徴的な構造物や新技術のご紹介をいただきました。また、敦賀-新大阪間の計画について、北陸圏から関西圏への時間短縮効果、東海道新幹線の代替補完機能としての効果に触れてお話いただきました。柏木様、ありがとうございました。

講演会終了後、会場を移動し開催した懇親会では、富山大学 学長補佐・特別研究教授、京都大学名誉教授 中川 大

支部長 (S54, S56) に関会のご挨拶の後、京土会本部よりご参加いただきました京都大学大学院工学研究科 都市社会工学専攻 准教授 松中 亮治 様より大学の近況報告を交えたご挨拶をいただき、前支部長の泉野地区社会福祉協議会会長、金沢大学名誉教授 北浦 勝 様 (S42, S44, S47) の乾杯で開宴となりました。宴会中は恒例の各自の近況報告に加え、佐幸測量設計(株) 技師長 脇本 幹雄 様 (S54) のギター演奏もあり様々な話題で盛り上がりました。

最後に次回開催の石川県を代表し、北陸名鉄開発(株) 代表取締役社長 安達 宗徳 様 (S62) の発声にて中締めとなりました。



2023年10月14日
懇親会でご挨拶される中川 大 支部長 (S54, S56)



2023年10月14日 総会でご挨拶される
京都大学 大学院工学研究科 都市社会工学専攻 松中 亮治 様

3. おわりに

2015年3月に北陸新幹線が開業し8年余りが経過しました。東京とのアクセスは各段に向上しているだけに、毎回申し上げますが、2024年春敦賀延伸、大阪までの新幹線開通が待ち遠しい限りです。今回は新幹線開業まで半年あまりの時期に福井県での開催となり、新幹線に関する話題が多く聞かれました。福井駅周辺も新幹線開業を踏まえ、活発な民間投資が行われていることから、これら高速鉄道の充実により、京都大学がある関西圏との交流増加が望まれるところですが、そのような時期を見据えて、我々北陸支部会員はそれぞれの立場で切磋琢磨していきたいと考えております。

最後になりますが、北陸支部は100名規模にまで会員数が

増えました。石川県、富山県、福井県の3県に京都大学全体の同窓会も定期的で開催され、京都大学関係者の交流も益々活性化しております。京土会の皆様、是非ともこの北陸に足をお運びいただければ幸いです。今後とも北陸支部をよろしく願いいたします。



2023年10月14日 支部総会出席者の皆様

京 滋 支 部

支部長 (H4) 傍 島 史 宗

本年度支部長をおおせつかっております京都府建設交通部道路計画課の傍島です。

京滋支部の支部長・事務局は、京都大学、京都市、京都府、立命館大学の輪番で担当することが慣例となっておりますが、コロナ禍による支部活動の中止・縮小等もあり、令和2年度以降、私ども京都府が受け持っております。

今年度は、11月10日に京都市内において4年ぶりの支部総会・懇親会を行うことができ、旧交を温めることができました。また、もう一つの恒例活動であるゴルフ大会も、11月9日に、大津市の比良ゴルフ倶楽部において、第44回石原杯争奪ゴルフ大会を不老会コンペと同時開催で実施いたしました。

京滋支部は母校の地元でもあり、京都府・滋賀県に在住・勤務されている卒業生の方々を中心に、1,000名を超える同窓生や恩師の先生方が会員として所属しています。会員の皆様におかれましては、今後とも、お近くと同級生・同窓生などお誘い合わせの上ご参加いただき、懇親の場として支部の行事をご活用いただければ幸いに存じます。

さて、京滋支部エリアの近況報告をさせていただきます。

まずは、文化庁が3月に京都に移転してまいりました。文化庁を迎えた京都としては、文化財や伝統芸能、生活文化などの歴史と伝統ある関西の文化を国内外に広く発信し、世界中の人々の日本文化への関心を高め、深く理解いただけるよう取り組んでいくことが一層求められています。

5月には新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づ

けが5類に変更され、京都にも以前のように大勢の観光客が訪れるようになりました。外国からの観光客も増加することで嬉しい悲鳴が関係業界から上がっている一方で、秋の観光シーズンなどでは、JR京都駅周辺は異国情緒すら感じられる状況であり、オーバーツーリズムや観光公害と称される様々な課題への対応も求められています。

インフラ整備に目を向けますと、新名神高速道路の全線開通を控え、沿線地域では、大きな商業施設、物流施設、工場等の建設など民間開発やまちづくりの動きが依然として活発です。今後は、高速道路の効果を最大限に高める道路ネットワークの充実・強化が求められています。鉄道については、3月にJR奈良線複線化・高速化第2期事業が完成し、ダイヤの安定性や利便性が大きく向上し、まさにアーバンネットワークと呼ぶに相応しい路線に生まれ変わり、沿線の新たなまちづくりが求められている状況です。

また、京都府、滋賀県の広い範囲が含まれる淀川水系においては、3月に天ヶ瀬ダム再開発事業の完成式典が執り行われ、トンネル式放流設備の運用により洪水調節の放流能力の向上が図られるなど、防災・減災に向けた取組が積極的に推進されています。

目まぐるしく変化する社会を支えることが求められる社会基盤ですが、これをつくり、育て、守り、そして進化させるために、我々学生時代に土木を学んだ者として何ができるのか、これからも日々考えながら職務に従事してまいります。

以上、簡単ではございますが、京滋支部の近況報告とさせていただきます。

奈良支部

幹事 (H2) 岡本 太郎

私ども奈良支部の活動については、この支部だよりのお陰によりまして徐々に京土会会員の皆様にお知り頂けるようになってきたようでありがたく存じており、御礼申し上げます。奈良支部は、奈良県に在住か在勤ということで会員数が300名余りと支部の中では中規模になろうかと思っております。支部長と幹事長、若干名の幹事が運営に携わり、支部活動としては、時候の良い頃合いをみて全会員にお声掛けのうえ、毎回20名ほどの有志が参加して散策会などを楽しんでいます。散策会は移動中の保険代などで千円程度、懇親会も5千円程度と比較的安価な会費をその都度集めています。これにより、会員のご家族やご友人も気軽に参加できるイベントとして地道に継続していることが他の支部に比べてユニークであり、よい意味で「ゆるい」支部だと自負しております。

このような奈良支部ではございますがご多分に漏れずコロナ禍のため、2019年の秋の散策会、懇親会を最後に数人の幹事会ですら対面開催を見送ってきましたところ、3年ぶりの幹事会を8月ようやく開催出来ました。この場で、2022年内に散策会と懇親会を開催することが決まりました。またこれと同時に支部のゴルフ会の立ち上げを目指すことにもなりました。これは幹事1名が京都大学体育会ゴルフ部OBであることが判明したのがきっかけです。

こうなると話が早いのがゴルフです。10月10日祝日の朝には支部長が勤務される市内にあるゴルフ場に幹事他8名の有志が集い、試行としてアットホームに第0回奈良支部ゴルフ会を楽しみました(写真1)。これで幹事のモチベーションが高まったことが功を奏してか12月10日土曜日に「ならまち」周辺での散策会と懇親会の開催に漕ぎつきました。当日は天候にも恵まれ約20人が散策会と懇親会に集まりました(写真2, 3)。冒頭に書きました通り300名を超える全会員への案内はこれまで往復はがきで行ってありましたところ、時代の要請に従い一部インターネットでのお知らせを試行的に取りくみました。引き続きの円滑な通信のためにも会員の皆様におかれましては京土会のウェブサイトでのこまめなメールアドレスの登録、更新をしていただきますよう、この場をお借りしてお願い申し上げます。

なお奈良県内では、高規格の鉄道や道路などとそれらの交通結節点の整備、あるいは文化財を中心としたまちづくりなど、奈良の歴史的、地理的な強みを生かしたインフラ事業も期待されています。また県内のあちこちで身近な道路や山間部のトンネル開通、線形改良なども目に見えて進んでおり普請好きの小生には興味深い土地柄であります。

最後に奈良支部に対する私個人が感じる魅力について書いてみます。関西のベッドタウンであるために、仕事の延長線上としてスーツ姿で集合する会というよりも、住まい暮らすまちの先輩後輩としての普段着で集う場であると考えています。このため会員のなかには、社会人として落ち

着いたところで新居を得て子育てで頑張っていることや、長らくの単身赴任を経てようやく家族と時間を過ごせるようになったこと、リタイア後の第二の人生において新たな挑戦や仲間づくりのことなどを話す場面が多く、会員同士のプライベートでの共感の話題が交わされているように感じられるところに魅力を感じております。会員がいろんな世代や立場を超えて仕事上の利害がなく奈良支部を通じて出会い、つきあいがつながっていくことができるところが素晴らしいとも思います。自分自身にとって大学の先輩、後輩ということで、不思議と心許してお話し出来る方々と出会える場となっております。この魅力をより多くの支部会員にも享受していただきたいと願い、次のイベントでも新たな出会いを期待しています！



写真1 第0回ゴルフ会



写真2 散策会



写真3 懇親会

大阪支部

(S63) 佐藤 広章

[支部活動報告]

大阪支部の幹事を務めております、昭和63年卒大阪モノレール株式会社の佐藤です。大阪支部の近況についてご報告いたします。



大阪支部は、大阪、奈良、和歌山の3府県に在住・在勤の会員約2,500名で構成されています。

昨年度の活動としては、支部例会を11月21日にホテルグランヴィア大阪で開催いたしました。当日は、家村先生、嘉門先生の2名の名誉教授、京土会会長の木村先生、土木系教室から、高橋先生、市川先生、音田先生、環境系教室から、藤原先生、大下先生の合計8名の先生方にご臨席を賜り、会員約190名のご参加を頂き、交流を深めました。

[幹事交代・支部会員の異動]

また、幹事も交代し、昭和63年卒の京阪電気鉄道(株)の塩山様と私、佐藤が新しく幹事を務めさせていただいております。

続きまして、支部会員の昨年度総会以降の主な異動についてご報告いたします。西日本高速道路株式会社では、昭和62年卒の永田様が取締役兼常務執行役員にご就任されました。阪神高速道路株式会社では、昭和57年卒の上松様が代表取締役兼専務執行役員に、昭和58年卒の濱様が取締役兼常務執行役員に、平成元年卒の山田様が取締役兼執行役員に、昭和60年卒の宮口様が常務執行役員にご就任されました。大阪府では、昭和60年卒の森岡様が副知事に、平成元年卒の尾花様が大阪都市計画局長に、平成2年卒の美馬様が都市整備部技監にご就任され、また、私、昭和63年卒の佐藤が理事として大阪モノレール株式会社に派遣されています。大阪市では、昭和63年卒の寺川様が建設局長に、ご就任され、昭和62年卒の生嶋様が理事として株式会社大阪港トランスポートシステムに派遣されています。

また、平成4年卒の山向様が建設局臨海地域事業推進本部長に平成3年卒の山田様が大阪都市計画局技監にご就任されました。

[大阪の近況報告]

続きまして、大阪の近況についてご報告いたします。2025年の大阪・関西万博までいよいよ2年を切りました。地元大阪では、万博を成功させるために、さらに万博を契機として、将来の飛躍的な発展のための基盤となりますよう、インフラ整備を推進しています。まず、万博会場となる夢洲周辺では、現在、北港テクノポート線の鉄道工事、夢洲内の観光外周道路や高架橋工事など、万博来場者の輸送力増強のための道路や鉄道の整備が着実に進められております。また、今年4月13日には起工式が行われ、会場建設工事が本格化しています。会場外の内陸部でも、高速道路では、万博開催時のシャトルバスのアクセスルートとなる淀川左岸線(2期)が進められており、鉄道では、北大阪急行の延伸区間の開業が今年度末に予定されるなど、万博来場者の円滑な輸送に向けた取り組みが着実に進んでおります。

次に、万博期間中の地域の安全確保の取り組みでは、まず、大規模地震・津波への備えとして、堤防、道路橋、鉄道の耐震対策や緊急交通路の無電柱化などを進めるとともに、治水事業では、令和4年8月に安威川ダムの本体が完成し、9月から試験湛水を行い、今年5月に最高水位に到達、6月に最低水位に到達いたしました。今年度事業が完了する予定です。

また、万博来場者の交流拡大、にぎわい創出を図るため、新たな都市拠点の形成や、魅力的な公共空間の創出にも取り組んでおります。まず、うめきた2期区域では、みどりとイノベーションの融合拠点形成に向け、令和5年2月に地区開発事業のプロジェクト名称が「グラングリーン大阪」に決定され、3月18日に、JR大阪駅の新たな地下の乗り場となる大阪駅(うめきたエリア)が開業いたしました。引き続き、民間公募の開発事業者による開発等が進められています。また、御堂筋では、人中心のストリートをめざし、現在、側道の歩行者空間化を進めており、また、大阪の玄関口であるなんば駅前でも、広場の空間再編に取り組んでいます。

さらに、大阪・関西の成長基盤となる、広域交通インフラ整備を進めており、高速道路ネットワークでは、先ほどの淀川左岸線(2期)とともに大阪都市再生環状道路の一区間をなす淀川左岸線延伸部、鉄道ネットワークでは、なにわ筋線、大阪モノレールの延伸区間の事業が着実に進められております。

新大阪駅周辺地域は、将来、リニア中央新幹線、北陸新幹線の全線開業によるスーパーメガリージョンの形成等により、世界でも有数の、広域交通ターミナルのまちづくりが実現することをめざし、令和4年10月に都市再生緊急整備地域に指定されたところです。

以上、万博をキーワードに関連した取り組みをご紹介いたしました。それ以外にも、住民生活、社会経済活動を支える都市インフラの整備や維持管理も確実に進めているところです。

大阪支部エリアでは、産学官が集結・率先いたしまして、様々な課題に対してチャレンジしており、大阪、関西ひいては我が国の成長の一翼を担えるよう活動してまいる所存

です。

京土会の皆様方におかれましては、なお一層のご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

神戸支部

支部長 (H1, H3) 竹 林 幹 雄

神戸支部は、兵庫県下に在住・在勤の会員約1200人で構成されています。例年、秋に神戸市内で、支部総会・現場見学会・講演会を開催し、総会には大学から先生にお越しいただき、交流を深めています。しかし、残念ながら、昨年コロナの影響が残っており、中止となりました。

ここで、最近の神戸支部関係のインフラ整備等の状況をご紹介します。

道路関係では、地域発展の基盤となる高速道路ネットワークの整備が進んでいます。大阪湾岸道路西伸部は、六甲アイランドとポートアイランドを結ぶ新港・灘浜航路部の海上長大橋の基本構造が8月1日に決定、神戸市長田区駒栄地区では開削トンネルが、六甲アイランドでは橋脚工事などが進んでいます。北近畿豊岡自動車道は、但馬空港IC～豊岡出石ICが来年秋に開通予定です。名神湾岸連絡線は、予備設計が進められています。山陰近畿自動車道の浜坂道路Ⅱ期はトンネル工事、竹野道路は詳細設計を進めています。播磨臨海地域道路は、昨年11月に国からルート計画案が示され、都市計画・環境影響評価手続きなど、事業化に向けた準備が着々と進んでいます。

港湾および空港関連では、2025年の神戸空港における国際線供用開始に向けて、まずは国際線ターミナル（サブターミナル）の設計・施工業者が特定されました。国際化に向けての施設整備が本着工に向けて順調に進んでいます。また、神戸港では神戸港将来構想に基づき、新港第1～第2突堤の再開発を進めています。ウォーターフロント再開発事

業のひとつで、現在は計画が決定された段階です。今後は神戸港の賑わいの中心として整備されることとなります。さらに、国土交通省港湾局が進めるカーボンニュートラルポート（CNP）に対応するため、神戸港においても協議会を立ち上げ、CNP実現に向けて着々と進んでいます。

防災・減災関係では、津波対策は津波防災インフラ整備計画に基づき福良湾口防波堤や新川水門の工事等が進められており、治水対策では、河川整備計画に基づき洪水調節容量拡大のための引原ダムの嵩上げの設計等が計画的に推進されています。土砂災害対策は第4次山地防災・土砂災害対策計画に基づき今年度は71箇所の砂防堰堤等に着手しています。

まちづくり関係では、一昨年リニューアルされた神戸三宮阪急ビル、昨年神戸市役所本庁舎の隣に移転した中央区役所に引き続き、都心三宮再整備の核となる新バスターミナル他の工事が旧中央区役所跡地にて進んでいます。JR三ノ宮駅の新駅ビルの準備工事にも着手し、駅南の三宮交差点では、将来の人中心のまちづくりを目指した車線を絞り込む工事も始まっています。三宮を行き交う皆様にも、これからの神戸の中心市街地の姿が意識できるようになってきました。

以上が神戸支部をめぐるインフラ等の整備の現状です。

コロナが終息し、以前のような活動を末永く続けていきたいと願っております。

最後に、支部会員の益々のご活躍と京土会の発展をお祈り申し上げるとともに、支部活動への引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

令和5年度の総会は11月28日に無事開催できました。詳細は次年度会報でご報告させていただきます。

岡山支部

幹事長 (S61) 長尾俊彦

今年の夏は、梅雨明けから各地で連日の猛暑が続いており、国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり地球沸騰の時代が来た」と警鐘を鳴らしています。果たして地球は臨界点をを超えて、取り返しのつかないところまで来てしまったのでしょうか。岡山県でも、水島工業地帯に立地した企業のカーボンニュートラルコンビナートの取組と連携した、水島港のカーボンニュートラルポートの取組を、国、県、市が連携して進めております。あらゆる人が希望を持って、できることから、できうる限りの努力を積み重ねていくことしかないと考えているところです。

さて、岡山県は、今年を平成30年7月の西日本豪雨からの復旧・復興の総仕上げの年として、氾濫等の発生した各河川の改良復旧工事に、全力を挙げて取り組んでいるところです。国に進めていただいている小田川の合流点替事業も、今年度の完成に向け工事を進捗いただき、真新しい河道の姿が、夏の山野の緑に鮮やかに映えております。被災以来、皆様からいただきましたご支援に、厚くお礼申し上げます。

今後、岡山のさらなる発展を目指して、岡山自動車道の4車線化工事や、国道2号玉島笠岡道路、地域高規格道路美作岡山道路などの幹線道路ネットワークの整備や、国際拠点港湾水島港の機能強化などを、着実に推進してまいりたいと存じます。引き続き、お力添えを賜りますようお願いいたします。

岡山支部の近況ですが、会員数は60～70人で推移しております。今年度の会員の異動につきましては、根津佳樹氏(H27院)が岡山国道事務所計画課長から国土技術政策総合研究所主任研究官に異動になられ、県関係では、西澤洋行氏(H10院)が国土交通省から土木部都市局長においでいただきました。また、前水島港湾事務所長の和田明氏(S61)は県を勇退し、新たな活躍の場で力を発揮されることになりました。

岡山支部では、例年、前期・後期の2回の懇親会を開催しております。令和元年以来、新型コロナの影響で開催を断念しておりましたが、4年ぶりに7月14日(金)、ANAクラウンプラザホテルで、前期の会を開催することができました。

前期の会は、毎回、本学から先生をお招きして開催しており、今回は、西村文武先生、肥後陽介先生、上田恭平先

生の3名の先生に、岡山まで足をお運びいただき、各専攻の近況についてお話をいただきました。誠にありがとうございました。

お話の中で、公務員、特に地方公務員への就職者が大きく減っていること、土木系学生では地方庁への就職はわずか1名という現実には驚かされました。その一方で、不動産系や文系職種を選ぶ学生が増えており、土木スピリットをもって、頑張っていたくよう期待したいという先生のお言葉が強く印象に残りました。公務員を選ぶ方が減っているのは心配ですが、土木を学んだ方々の活躍の場が、時代に於いて広がっていくことは好ましいことなのだと受け止めました。

また、今回は県外から、タック代表取締役の瀧川信二氏(S63)、前国土交通省岡山国道事務所長で西日本高速道路株式会社人事担当課長の富田貴敏氏(H9院)にも駆けつけていただき、ご参加の24名の間で、賑やかに旧交を温めることができました。岡山支部の懇親会には、県外からのご参加も大歓迎です。皆様、是非、岡山支部の和気あいあいの懇親会に、おいでいただきたいと存じます。



最後になりましたが、会員の皆様のますますのご活躍と京土会のご発展をお祈り申し上げますとともに、支部活動へのご支援をお願いし、岡山支部からの近況報告とさせていただきます。

広島支部

(H13) 山崎 恭 誉

広島支部の近況をご報告します。

支部会員数は現在94名で、異動・転入などにより、昨年より3名の増加となりました。

今年度の支部総会は、7月12日にメルパルク広島において、令和元年以来4年ぶりに開催いたしました。33名の支部会員にご参加いただき、コロナ禍でなかなかお会いできていなかった方々と久々に再会することができました。また、今回の総会では、本学より原田英治教授をお招きし、『混相流・粒状体力学に基づく流砂水理学の新しい展開』と題してご講演いただき、支部総会は盛会に終了いたしました。

なお、今年度の本部評議員と支部役員については、本部評議員を福原真爾様 (S54)、國西達也様 (S62)、支部長を山田恭平様 (S56)、副支部長を楠橋康宏様 (S58)、幹事長を吉川克明様 (H7)、幹事を合田尚義様 (H3)、家島大輔様 (H9)、山崎恭誉 (H13)、二宮智大様 (H26) に務めていただくことになりました。



さて、最近の広島県の状況でございますが、本年5月には主要国首脳会議 (G7サミット) が広島で開催され、G7の首脳等に被爆の実相や平和への思いを共有していただき、また、平和の象徴としての広島を世界に発信したところですが、サミット効果やコロナの影響緩和等により海外から多くの方が広島にお越しになり、県内は多くの外国人で賑わっている状況です。また、広島市内中心部ではサンフレッチェ広島ホームグラウンドとなる『エディオンピースウイング広島』の建設工事も佳境に差し掛かり、令和6年2月の供

用に向けてスタジアムの全貌が明らかになり、更なる街の盛り上がり期待されます。

インフラ整備では広域交流・連携基盤の強化に向けた大規模プロジェクトである一般国道2号東広島・安芸バイパス (延長17.3km) が本年3月に全線開通し、並行する国道の渋滞緩和や物流の定時性確保等に効果を発揮しております。また、広島駅南口広場の再整備等が行われており、令和7年春完成予定の駅ビルの建替えや路面電車のルートの新設などによる陸の玄関にふさわしいまちづくりが進められ、広島駅周辺は日々姿を変えています。

最後に、京土会会員の皆様方の益々のご活躍と京土会のご発展をお祈りするとともに、支部活動へのご支援をお願いし、近況報告とさせていただきます。

2023年度広島支部役員一覧

評議員

福原 真爾 54 國西 達也 62

支部役員

支部長 山田 恭平 56
 中電プラント 社長

副支部長 楠橋 康宏 58
 西日本高速道路エンジニアリング中国土木事業本部 上級主幹

幹事長 吉川 克明 H7
 広島高速道路公社技術管理課 課長

幹事 合田 尚義 H3
 合田産業 取締役社長

幹事 家島 大輔 H9
 中国電力電源事業本部安全審査土木グループ マネージャー

幹事 山崎 恭誉 H13
 広島県土木建築局技術企画課企画調査グループ 主査 (グループリーダー)

幹事 二宮 智大 H26
 国土交通省中国地方整備局企画部企画課 課長補佐

山口支部

幹事長 (H9, H11, H14) 中 島 伸一郎

山口支部は、山口県に住所あるいは勤務地のある同窓生を会員とし、現在約40名の会員からなっています。会員の転入出が比較的少なく、メンバーがほぼ固定していることもあって、会員どうしの親密な関係が築かれています。会員の約4分の1は定年退職された先輩方で、悠々自適の生活を送られたり、あるいは今も現場の第一線で活躍されたりしています。あとは県庁関係者が約4分の1、山口大学など教育機関が約4分の1、民間企業や研究所が約4分の1となっています。

当支部では、1～2年に1回懇親会を開催しており、会員間の交流および情報交換の貴重な場となってきました。コロナ禍で3年ほど休止していましたが、今年の7月ようやく再開し、みなさんの無事を祝うとともに、情報共有と連携の強化を推し進めることを再確認しました。今後は

若手メンバーにも積極的に参加いただき、世代を超えた交流の場となることを期待しています。会員のみなさま、どうぞよろしく願いいたします。



四国支部

支部長 (S52) 末澤 等

四国支部は四国4県（徳島，高知，愛媛，香川）に居住または勤務する京土会会員で構成されています。近年の会員数は140名前後で推移し，2023年6月現在，134名となっています。

四国支部では，例年5月後半の土曜日に支部総会を開催して，支部会員の懇親を深めています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため，しばらく対面で開催できていませんでしたが，令和5年度は香川県高松市内で5月27日に支部総会を4年ぶりに開催することができました。支部総会には本学から藤原拓教授と安原英明教授にご臨席いただき，支部会員と合わせて37名が参集しました。

支部総会では，まず，事務局から四国支部の活動状況が

報告され，藤原教授・安原教授から本学の近況を紹介いただきました。その後，懇親会に移り，それぞれが久闊を叙しながら，世代を超えて懇親を深めた後，参加者全員がお互いに肩を組み合って「琵琶湖周航の歌」を大合唱し，参加者の団結を固め，最後に，京土会四国支部の発展を祈念して万歳三唱を行い，盛会のうちに幕を下ろしました。

四国支部では，過去数年間の支部総会参加者数が40名を下回っていることから，今後も，引き続き活性化に取り組み，会員同士の懇親を深めるための場である支部総会を盛り上げていきたいと考えています。

最後に，引き続き四国支部の活性化に取り組んでまいりますので，四国支部会員の皆さまには支部総会への積極的な参加などのご支援をいただくとともに，四国外の皆さまには四国に勤務する機会等がございましたら，四国支部総会にご参加くださいますよう，宜しくお願いたします。



北九州支部

幹事 (H21, H23) 福田 尚 倫

7月4日、小倉祇園太鼓の祭囃子が聞こえ、少しずつ日常が戻りつつあることを肌身を感じながら、出席者10名（会員25名）で本部より高岡先生と須崎先生のご臨席のもと、小倉の中華料理店で4年ぶりの当支部総会を開催しました。久しぶりに対面での近況報告を行いました。また、近年話題となっているインフラの維持管理等について語り合いました。

北九州市は、今年で、門司市・小倉市・若松市・八幡市・戸畑市の5市対等合併から60年になります。その周年事業の一環で、次回からオリンピック種目になるダンススポーツ「プレイキン」の世界大会が日本で初めて開催され、NHKのど自慢が実施されております。

また、土木分野においては、北九州空港の滑走路が2500mから3000mへの延伸事業が着手されました。今後、大型貨物機による長距離運航が可能となり機能強化が期待されます。



(出席者)

前列・左から 吹中、須崎、垣迫、高岡、藤井、森川
後列・左から 津守、柏原、真名子、谷垣、長野、福田

支部会員短信

藤井 崇弘 (S34, S36)

S10年生まれ88歳。旧建設省にて道路整備に邁進しました。兵庫県土木部長時代の明石海峡大橋着工も思い出されます。現在も建設省OB会にて活動しています。ウォーキングをして健康を維持するとともに、強くなりたい囲碁は井山棋士を中心にNHK・TVを観戦、楽しんでいます。

垣迫 裕俊支部長 (S52)

市役所に42年間勤務し、土木、環境、保健福祉、教育と様々な分野を経験、退職後は大学の教員を務めました。現在も社会福祉法人や学校法人の理事で忙しくしています。孫4人のお世話の方も大変です。最近では妻とトレーニングジムに通っています。

森川 真一 (S54, S56)

3年前に65歳で市役所の水道局を卒業し、設計コンサルタントに就職、市町村の水道の危機管理計画に携わっています。70歳まで働く時代、まだまだ頑張りたいです。趣味は自転車と山登り。北九州は低い山がたくさんあるのでちょうどよいです。

吹中 範生 (H4, H6)

プラントメーカーにて、最近まではバイオマス発電プラントの技術営業を行っていましたが、現在は廃棄物発電プラントの設計業務に携わっています。子供が2人とも就職し、妻と猫二匹で仲良く暮らしています。

真名子 一隆 (H10, H12)

プラントメーカーにて、海外等のプロジェクト業務に携わっています。下の子供が高校を卒業するので、来年から二人暮らしに。北九州はいいところがたくさんあるので子供達には戻ってきて欲しいが、どうなることやら。

谷垣 信宏 (H11, H13)

約10年間ドイツに駐在し、2020年に帰国、現在は国内廃棄物発電プラント建設プロジェクトのマネジメント業務に携わっています。休日は子供の勉強をみたり、ドイツ時代の旧友と交流したりしています。

津守 嘉彦 (H15)

北九州市役所にて、港湾施設の点検、維持管理業務を行っています。バス通勤を自転車に替え、健康維持に努めています。また、近所の子供達の勉強をみたりしています。

柏原 友 (H15, H17)

プラントメーカーにてしばらくの間ドイツに駐在していたため約10年ぶりに参加、現在は海外の廃棄物発電プラントのプロジェクト業務やバイオマス燃料の事業開発に携わっています。生ごみコンポストによる土づくりと家庭菜園を楽しんでいます。

福田 尚倫 (H21, H23)

プラントメーカーにて、廃棄物発電に関する技術開発や、環境関連の業界団体活動を中心とした業務に携わっています。健康のため2021年から胡瓜ダイエットを始めて20kg減量、今も継続して二年半、なんとか体型維持しています。

長野 高明 (R3, R5)

今年の3月に大学院を修了し、プラントメーカーに入社しました。今は会社の新入社員研修を受けています。地元は京都で、大学時代は硬式野球で汗を流していました。北九州は住みやすい街です。

福岡支部

幹事 (H30) 安永知生

福岡支部は、北九州を除く九州全域に在住・在勤の京土会会員によって構成されており、毎年総会を開催し、会員相互の親睦を深めております。支部では毎年6月頃に総会を開催しており、昨年までは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を見送っておりましたが、今回は2019年以来4年ぶりの開催となりました。

今年は大学より木村亮名誉教授、米田稔教授、米山望准教授を来賓に迎え、6月8日に福岡市にて支部総会を開催いたしました。総会では木村先生より京土会のDX戦略、米田先生及び米山先生より土木・環境系教室の近況や就職状況等についてご紹介頂きました。また、九州地方整備局の藤巻浩之局長（H1）より、九州の将来像を踏まえた広域的な道路交通の今後の方向性を定める「九州地方新広域道路交通ビジョン」や災害対応能力向上に向けた九州地方整備局の取り組みについてご紹介頂きました。今年は4年ぶりの開催ということで初参加者1名含む21名にご参加頂き、大変な盛り上がりとなりました。

懇親会終了後に撮影した写真をご紹介します。



部総会の参加者は以下のとおりです。（敬称略）

小倉（44）、松葉（49）、江口（52）、有吉（57）、千田（57）、守田（57）、満島（58）、喜安（60）、大野（62）、河端（H1）、瀧口（H1）、藤巻（H1）、三坂（H1）、島野（H2）、本郷（H5）、下村（H6）、田中（H7）、長野（H21）、東（H24）、義経（H26）、安永（H30）

九州の主な動きに話題は移りますが、福岡市営地下鉄七隈線が博多駅まで延伸開業しました。延伸工事では、2016年にJR博多駅前の道路で大規模な陥没事故が発生し工期が2年遅れるなど紆余曲折ありましたが、延伸により七隈線の各駅から博多駅までが14分短縮され、福岡市西部とのアクセスが大きく改善されることが期待されます。

また、JR大船渡線・気仙沼線に続いて全国3例目、九州では初の事例となる日田彦山線BRTひこぼしラインが8月27日に開業しました。2017年7月の九州北部豪雨によりJR日田彦山線が甚大な被害を受けましたが、今回、一部区間をバス専用道路に転用して運行するBRT（Bus Rapid Transit）として整備されました。BRTが鉄道の被災路線復旧のモデルケースとなるか、全国から注目を集めています。

最後になりましたが、京土会の皆さまの益々のご活躍と京土会の更なる発展をお祈り申し上げるとともに、福岡支部会員の皆さまにおかれましては、今後とも支部活動へのご協力を宜しく願います。

椿の会（京土会女性支部）

(H6) 中山 かおり

椿の会は、京土会女性会員のネットワーク構築を目的として、2017年に発足しました。現役学生へのキャリア支援や卒業生同士の交流などの活動をしています。当初は桂キャンパスにて、現役学生と卒業生の交流を目的とした「キャリア支援交流会」を年1回開催していました。2019年にはキャリア支援交流会に加え、東京で初めて卒業生の交流会を親子同伴で開催し、「育児期間を含んだキャリア設計」についてが話題の中心となりました。

2020年からは新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、オンラインで開催しています。最初はオンラインでの交流に苦勞した面もありましたが、対面での参加が難しい子育て中の方や全国各地に留まらず海外在住の方も参加が可能となり、より幅広いキャリアの情報交換や交流が可能となりました。

2022年も12月3日(土)にオンライン交流会を開催しました。卒業生2名に卒業後の経験談を伺った後、現役学生と国内外の卒業生をグループ分けして懇談し、いずれも本音が飛び交う楽しい交流の場となりました。今年是对面での開催も可能な状況となって参りましたが、オンラインの大きなメリットを活かして交流会を継続していきたいと考えていま

す。

また、交流会参加者は女性に限らず、OGのキャリアに興味を持つ男子学生やOBの参加もあり、OGの経験談や率直な意見を幅広く発信できる機会となりました。多様な立場の方と情報共有や意見交換をすることが、課題解決に向けてとても重要なことと考えています。

更に、現役学生時代に「椿の会交流会」に参加してOGと交流し、そこでヒントや縁を得て、進路の決定や社会人となった現在のキャリアに繋がっているとの声もあり、幹事団としては大変嬉しく感じるところです。私自身に関しても、数年前に交流会で出会った学生さんが、今は同じ会社で元気に働いています。

この数年で女性活躍推進を取り巻く状況は大きく変化し、「女性支部」という括りに違和感を持つ方もいらっしゃると思いますが、総論賛成でも「各論」や「意識の問題」についてはまだまだ課題があることが現実であり、更に年代や職種、置かれている立場によって課題も様々です。そして女性のみでなく誰もが生き生きと過ごせる土木業界になるよう、垣根を越えて情報発信や交流の場となるように努めていきたいです。例えば「こんな仕事をしている人の話を聞いてみたい。」などありましたら、卒業生から探して紹介するなど、多様なネットワークづくりにもお役に立てればと考えています。